

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会誌

ケアマネ通信 やまがた No.37

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会
副会長 高橋 英一

日頃より会員の皆様には、当協会の運営にご協力賜り厚く御礼申し上げます。

また、皆様におきましては日々の新型コロナウイルス拡大の影響でサービス調整等ご苦労されていると存じます。

私は、令和3年度より、副会長を拝命いたしました高橋英一です。高橋則好会長の下佐藤知生副会長と共に理事並びに会員の皆様に支えられて日々当協会の運営をお手伝いしております。最上地支部の支部長も兼務しております。

さて、私は平成19年より介護支援専門員の職を行っております。当時を振り返ってみますと、いろいろな方々に支えていただき、介護支援専門員業務を行うことができました。

平成18年の実務者研修受講試験に合格したとき、当時所属していた法人の意向で介護支援専門員実務者研修前に、居宅介護支援事業所の立ち上げの内示を受け、プレッシャーの中研修を受講しました。研修の終わった後は一人介護支援専門員として業務の右も左も分からない中、どうしたらよいかわからずにいました。その時地域の先輩介護支援専門員より勧められたのが、当協会への入会でした。

協会に入会してみて地域の支部活動に携わっていくうち、自然とネットワークが広がり、相談できる仲間が増えました。一人事業所としてなんとかやっていけたのも最上地区支部の諸先輩のご指導やご協力があったからだと思えます。ありがとうございます。

平成27年からは県支部の理事として、県支部のお仕事にも携わらせていただきました。最初に参加した理事会では実務者研修、更新研修などで教鞭をとられている私にとって雲の上のような方々ばかりが理事で、私ごときが、やっていけるのか、とんでもないところに来てしまったと後悔しました。県支部の仕事をさせていただき、そこでも先輩理事の皆様にご指導いただきながら、なんとか理事を務めることができ成長できたと思えます。ですが、副会長職は私の器で以上の

ものではないのかと今も思っております。

山形県支部では、副会長職として『ケアマネ支援部』の担当となっております。ケアマネ支援部では6つの委員会があります。これらの委員会は、介護支援専門員の資質の向上や多職種との連携など介護支援専門員の実務に直結する委員会となっております。オンライン研修委員会は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響でオンラインでの研修が主流となってきており、協会でも早急な対応が必要となり、できた委員会となっております。

各委員会では会員の皆様が会員になってよかったと満足していただけるよう、理事がそれぞれ智慧を出し頑張っております。

私は、介護支援専門員は人とひとをつなぐ仕事かと思えます。利用者のニーズに応えられる事業所をつなぐこと、利用者や家族をつなぐこと、医療と介護をつなぐこと、利用者や多職種をつなぐこと、介護支援専門員のネットワーク能力で利用者の幸不幸が決まると言っても過言ではないと考えます。私は協会に入ったことで、ネットワークを構築することができました。

今後、利用者のニーズはさらに多様性に富んだものに変化していくことが予想されます。そのようなニーズに応えるためには、個々の介護支援専門員の資質の向上だけでなく、人とのネットワークの構築、ICTの活用などが必要かと思えます。また、居宅介護支援の指定権者が市町村に移譲されました。そのため地区支部での活動がさらに重要になると考えられます。県内に5地区支部の活性化により、より地域に根差した県協会に変化できると考えられます。

最後に、皆様と一緒に私も協会も成長していけるように、皆様のお力をお貸しください。微力ながら私も頑張りますので今後ともよろしくお願いいたします。

Zoomの研修が多くなり、ほかの地区支部の皆様と気軽にお会いすることが多くなりました。私は、趣味が農作業ですので、日焼けしておりますので研修で見かけた際は気軽に声をかけてください。それでは研修会で元気な顔でお会いしましょう。

巻頭言 一般社団法人 山形県介護支援専門員協会 副会長 高橋 英一	1
第11回 通常総会報告	2
理事会報告	3
研修会報告	5

地区支部報告	6
委員会報告	6
各専門職から(Professional Comennt)	8
わんコラム	8
編集後記	8

令和4年度 第11回 通常総会報告

日 時 令和4年6月18日(土)14時～15時
 開催形式 ハイブリッド形式(会場参加とZoom)
 会 場 山形市総合福祉センター

今年度の総会も昨年同様、ハイブリッド形式で開催されました。Zoomの操作にも慣れ、スムーズな総会をおこなうことができました。

以下に総会の概要を報告します。

〈総会成立確認〉

正会員数 401名 議決権の数 401個
 出席 153名(内委任状125名) 議決権の数 153個
 定款第30条による、正会員の1/3以上の出席となり成立しました。

〈議長選出〉

正会員より、事務局推薦にて、議長は村山地区支部の佐藤直樹氏が選出されました。

〈議事録署名〉

正会員より、山形地区支部の鈴木真祐美氏、庄内地区支部の高橋秀典氏が選出されました。

〈議事内容〉

【第1号議案】令和3年度事業報告の件

佐藤副会長、各委員長、各支部長が、令和3年4月1日～令和4年3月31日における事業状況について、事業報告



資料により説明報告しました。

【第2号議案】令和3年度収支決算報告の件

鈴木財務担当理事が、令和3年4月1日～令和4年3月31日の財務状況を報告しました。監査報告は、峯田幸悦監事から、適正妥当なもの認められるとの報告がなされました。

【第3号議案】令和4年度事業計画の件

佐藤副会長、各委員長、支部長が、令和4年4月1日～令和5年3月31日の事業計画(案)を説明しました。

【第4号議案】令和4年度予算の件

鈴木財務担当理事が、令和4年4月1日～令和5年3月31日に予算(案)を説明しました。

第3号議案、第4号議案ともに賛成過半数で承認されました。

【第5号議案】定款の変更の件

佐藤副会長が、定款変更(案)について説明しました。賛成過半数で承認されました。

事前に会員、賛助会員より質問が寄せられた件について、佐藤副会長より回答がありました。

その他の議事はなく、議長は降壇し、総会の議事は無事終了しました。

災害お見舞い 申し上げます

8月3、4日の大雨による被災された地域事業所、会員各位、そのご家族のみなさまに心からお見舞い申し上げます。また、復興にご尽力されてきた方々大変おつかれさまでした。災害への対応、対策の重要性をあらためて考える必要性を感じた出来事でした。

今後も災害は、いつ・どこで発生するかわからない状況です。日々の備えと「いざという時」のネットワーク作りも大切かと思います。

災害をはじめ、次々に変異を続ける新型コロナなど、身近なリスクが多々ある昨今、会員のみなさまには健康に留意されご活躍されることをお祈り申し上げます。

理事会報告

第56回 理事会

日時 令和4年4月23日 14時00分～

形式 Zoomによるオンライン

参加者 高橋(則) 高橋(英) 三浦 高瀬
安藤 齋藤 青木 吉田 海藤 阿部
村上 伊藤(喜) 沼澤 西田
高橋(秀) 大内 鈴木 佐藤(知)

1、各地区支部報告

- 【山形】4/13 役員会開催。Zoom開催。新役員が決まり新体制となり活動を開始
- 【庄内】4/5 役員会。Zoom開催。昨年の事業報告及び今年度の活動案を検討
- 【最上】役員会は未開催。ラインを利用して今年度の会員限定研修等を検討中
- 【置賜】4/15 三役会開催。今年度の研修を企画中。

2、各委員会報告

- 【専門職連携】言語聴覚士の荒井理事講師の研修が4/25に開催予定
- 【講師・ファシリテーター養成研修】
3/25、委託金が納付された
- 【広報】36号の発刊に向け調整中
- 【会員サポート】主任介護支援専門員の更新研修の要件について問い合わせあり。最上地区にて1件の相談を受けた。
- 【総務】年会費未納者を退会とし、年度内退会者を含め合計すると77名だったが、最近、新規入会者も複数あり。会員様の対応を継続していく
- 【財務】会計監査 5/6 予定

3、令和3年度事業報告 総会資料の通り

4、令和4年度事業計画について 総会資料の通り

5、その他

- ・日本介護支援専門員協会社員総会については高橋英一副会長が出席。東北ブロック会議と研修を開催した。
- ・会員サポート委員会の在り方については検討が必要。
- 各地区支部について、コロナ禍の状況で活動頑張られた。一昨年は研修が中々実施できなかったが、今年度は後半に多職種連携や東北ブロック研修など開催され、協会活動が活発になってきた。

第57回 理事会

日時 令和4年5月15日 10時00分～

形式 Zoomによるオンライン

参加者 高橋(則) 佐藤(知) 三浦 鈴木
荒井(晋) 安藤 山蔭 沼澤
荒井(利) 西田 高橋(秀) 菅野
大内 青木 鹿野 齋藤 菅原

1、各地区支部報告

- 【山形】・7月に研修会を企画している。
 - ・スキルアップ研修は、年2回を予定。
 - 主任ケアマネ更新研修の受講要件に該当する研修会とする。
 - ・スーパービジョン研修会は、10、2月に開催予定。
- 【村山】5/18 三役会をおこない、理事の欠員、事務地区支部総会は書面決議を予定している。
- 【庄内】報告事項なし
- 【最上】5/10 役員会開催。総会の書面決議、年間計画について検討。
7月に会員限定研修会開催予定。11月、2月に研修会開催予定。
- 【置賜】総会資料について内容確認中。10月頃に研修会開催予定。

2、各委員会報告

- 【専門職連携】今年度もZoom研修を企画している。会員外の参加も可能とし、会費は検討中。
- 【オンライン研修準備】総会時のハイブリッド型開催に向けて準備中。
- 【広報】会報誌36号が納品され、総会資料と共に発送予定。
- 【主任ケアマネ】国際医療福祉大学石山氏を講師に招いての研修会を企画調整中。
- 【総務】令和3年度退会者の基礎資格について確認行った。
- 【財務】5/17 会計監査に向けて準備中。会員数が年々減っている状況にあり、会費収入ですべてをまかなうことは困難となっている。経理担当職員の雇用について検討が必要。

3、令和4年度総会について

- 6/18 ハイブリッド型で開催予定。令和3年度事業報告、令和4年度事業計画について、再度確認してほしい。

4、新規入会者承認

- 6名の新規入会者あり、承認される。

5、定款の変更について

今回の事務所移転に伴う手続きの中で、理事会議事録の押印について、定款記載の方法と変わっていたため、定款の変更をする必要がある。総会時に議案提出する。

6、各専門職から

山形県歯科医師会より、訪問歯科診療の相談窓口を開設した。チラシを総会案内と共に同封する。
高橋会長より、コロナウイルスワクチン4回目接種の話が出ている。4回目は60歳以上の高齢の方、基礎疾患のある方とのことで、各市町村単位で動いている。

第58回 理事会

日時 令和4年7月23日 10時00分～

形式 Zoomによるオンライン

参加者 高橋(則) 高橋(英) 三浦 鈴木
荒井(晋) 伊藤(喜) 佐藤(郁)
海藤 阿部 村上 荒井(利)
高橋(秀) 大内 齋藤 菅原

1、各地区支部報告

【山形】7/22に成澤先生を呼んでの研修会が終了した。参加者は93名。参加申し込みにpeatixを使用し、地区支部としてのスキルアップにもなった。今後アンケート集計する。

【村山】地区支部役員の改選があり、書面決議の総会で承認された。県協会理事1名より退任希望あり。今後、地区支部から県協会理事を推薦する必要があるが、まだ決まっていない状態。決まり次第、事務局に報告する。

【庄内】6/28に役員会を開催し、地区支部研修会について話し合いをした。10月にケアマネジャー大会を開催予定。

【最上】6/29役員会と役員のZoom勉強会を開催。研修会は9月に門脇理事を講師とした研修を開催予定。

【置賜】地区支部の総会を書面決議とし、これから発送をする。その際、県協会入会案内文書を同封し会員増の取り組みを行う。研修会は、10月と2月にZoom研修を予定。

2、各委員会報告

【専門職連携】

・7/28の研修会について荒井理事の協力により、peatixのキャンセル手続きを行った。中止のお知らせも終了。今後の課題は、コンビニ払いをもらった申込者8名への返金について検討する。

・9/10の第2回目の研修会までに、peatixの操作方法

等について勉強会開催希望。→県協会理事と地区支部理事で勉強会を行う。理事・地区支部長に開催について知らせる。

【講師・ファシリテーター養成研修】

研修内容、講師調整中。

【広報】

・会報誌37号の発行準備中。9月下旬から10月に発送予定。

・ホームページ更新について、→臨時理事会でもこの件の話が出た。前理事の荒木氏より操作方法について教えていただく。Facebookに変えたらどうかという話も出ているが、ホームページは更新できる体制をとっておく必要がある。広報委員中心となり操作方法を学ぶ勉強会を開催する。

【主任ケアマネ】7/8にZoomで委員会開催。国際医療福祉大学大学院石山麗子先生をお招きしての研修会を11月～12月に開催できるよう調整中。

【会員サポート】質問が1件あり、認定調査の判断根拠について回答している。

【財務】・監事の変更について、村山監事から相談があった。奥山会計事務所に頼んでどうかという話も出ている。今後、奥山会計事務所とアプリ(オンライン)で繋がり、そこで入力をしていく方法などを考えていると聞いていたので、確認する。決算報告書まで会計事務所で作成していただく場合の料金なども確認が必要になる。

・現在、県協会の年会費として1万円徴収しているが、県協会の研修が3回企画された場合非会員として3千円を3回払った方が安い。会員は1万円を払ったほかに参加費を払うことになっている。これでは会員増につながらないのではないかと。非会員の参加費を値上げするのも一つの手だが、委員会研修なども企画してもらい、県協会全体で年4回以上の研修開催をしてもらいたい。100名程度の規模の研修をしていかなければ、財政は厳しい。

→100人規模の研修会について、今年度は東北ブロック研修のことしか頭になかったと思うが、AI・ICTを用いたケアマネジメントについて研修会をしてはどうか。講師は日本協会に聞いて、調整する。会員サポート委員が機能していないので、会員サポート委員の研修会としてもらう。

3、事務局の体制について

現在、事務局員1名が体調を崩し休んでいる状態。それに伴い、事務局体制が沼澤さん一人になっており、郵送物の発送作業など、山形地区支部・村山地区支部の理事が手伝っている。その部分の労務費について。今までは、1回の事務作業手伝いにつき千円を会議費として支給してきた。今後、2時間程度で千円としたい。

また、山形地区支部の方には、夜間手伝ってもらったり、協会の携帯電話を1週間交代で持ってもらうたりしている現状。お金の支給についてもそうだが、今後の事務局の業務分担についても検討しなければならない。今後の状況次第で、事務局職員を確保しなければならない。ハローワークなどに募集を出すなどの対応が必要。体制的には、毎日一日誰かが事務局にいることが理想だが、財務的には毎日半日の事務員を雇うのがやっとの状態。事務員募集については沼澤さんと検討して動く。

4、東北ブロック会議研修会について

・研修会テーマを理事から募集し、「AI・ICTを用いたケアマネジメント」「LIFEを視野に入れたケアマネジメント(松川講師)」が挙げられた。
→東北ブロック研修会テーマはLIFEを視野に入れたケアマネジメントの松川氏に依頼。

5、「LIFE」を活用した取り組み状況の把握および訪問系サービス・居宅介護支援事業所におけるLIFEの活用可能性の検証に関する調査研究へのモデル事業の推薦(2事業所)・阿部理事の事業所を推薦。もう1事業所を検討。各支部長に再度メールで送る。

6、新規入会者承認

10名の新規入会者あり。10名の入会(1名は会費入金後)を承認する。

7、その他

・各地区支部長の皆様へ、ケアプラン点検アドバイザーの推薦、ありがとうございます。
・8/5の全国支部長会議について、高橋会長の出席が難しいため、高橋英一副会長が出席する。

研修会 報告

主任介護支援専門員の役割と課題

～全国の地域包括支援センター職員と語ろう～

去る8月6日(土)10:00～12:30に日本介護支援専門員協会主催で標記研修会がオンラインで開催されました。

研修会は3部構成で、「現場の主任介護支援専門員が語る現状と課題提起～地域包括支援センターにおける主任介護支援専門員の果たすべき役割の調査研究報告から読み取るアンケート結果～」、グループワーク「各地域における自立型地域ケア会議の現状」講師：広島市東原・祇園地域包括支援センター センター長 久保田竜二氏、「地域ケア会議に役立つPDCA～C(heck)・A(ction)を学ぼう」講師：特別養護老人ホームアリオン ベガサスケアプランセンター石津北施設長 中辻朋博氏という内容でした。

今回は「現場の主任介護支援専門員が語る現状と課題提起」の部分を中心に報告します。

講義は「あなたの地域に課題はありますか?その課題は利用者(個)から把握しましたか、地域を見て把握しましたか。」「市町の地域課題がそれぞれの市町の計画書に反映していますか?それを確認していますか。」という問いかけから始まり、地域包括支援センター(以下:包括)の主任介護支援専門員が担うケアマネジメントとは、介護や支援を必要とする利用者本人と実際の福祉・医療サービスやその他の社会資源を調整してつなぎ合わせる作業のことであることや、介護支援専門員として身につけるべき8つの力(①介護保険制度の知識、②コミュニケーション力、③ケアマネジメント実践力、④多職種協働チーム活用力、⑤省察

的思考力、⑥生涯学習・教育力、⑦プロ意識と倫理、⑧地域アプローチ)の中で、地域アプローチが重要となり、地域の課題分析や社会資源の開発等の思量や力量を高めていく必要があることが話された。また、令和2年におこなわれた「調査研究報告書」のデータを用い、包括の主任介護支援専門員が担っている業務が多岐にわたっていること、包括的・継続的ケアマネジメント支援について、「介護支援専門員への指導・助言」と捉えている方が多いが、包括の主任介護支援専門員が担うのは「サポート」であり、本人や家族が必要な時に必要な社会資源を切れ目なく活用できるように援助していくこと、介護支援専門員や支援チーム・地域へのサポートをする役割であることなど、業務内容と役割について再度整理していく必要があるという話があった。最後に地域ケア会議についての報告では、地域ケア会議の開催回数について0～3回/年が多くみられることや、自立支援型地域ケア会議開催については0回/年がかなり多い現状が報告された。地域ケア会議への関りも、進行役が多い現状であり、今後スーパービジョンについての資質の向上を行い、スーパーバイザーとして関りを持てるようにしていく必要があるという内容だった。

今後業務を行っていく中で、再確認していく事項などがわかり、有意義な時間となった。

(山形県介護支援専門員協会 理事 菅原麗子)

地区支部報告

山形 地区支部

令和4年度 山形地区支部第1回研修会



令和4年7月22日(金)18時30分～20時30分の日程で介護支援センターよつばの里 管理者 成澤正則先生を講師にお迎えし、「居宅介護支援等に係る書類・事務手続きや業務負担等の取り扱いについて」(介護保険最新情報 Vol.959)の内容理解)のテーマでWeb会議システムZoomによるウェビナー形式で研修会を開催しました。

このVol.959は令和3年3月31日に通知され、令和4年3月24日にVol.1049として再通知されたもので、国としても強く推しており、国が介護支援専門員に求める状態像であり、ケアマネジメントに係る基本的かつ重要な内容である為、再度目を通して理解してすべき内容であるとの説明を成澤先生よりいただきました。

また業務負担軽減等を鑑み、居宅介護支援事業所と各保険者における認識が一致しない状況もある為、居宅介護支援事業所としても法的根拠(evidence)を示し、自治体に対しての意見や提案による合意形成の必要性が求められ、居宅サービス計画書の作成についても一連のプロセスを踏まえながら、進めていくべきものであるが、緊急的・効果的・効率的に行なうことを前提に、運営基準第13条第3号から第12号までを把握し、プロセスの確認をもって、軽微な変更である根拠を示す必要があることをその内容等について大変解り易く丁寧に説明いただきました。

今回の研修は、Peatixからの申し込みという山形地区支部としても初めての試みで、参加者の皆様には大変な思いをした方や抵抗感のあった方もいたと思いますが、それ

でも申込者は97名となり、最終的には93名の方の参加となりました。

アンケートについてもGoogleのFormsにて回答を収集し、68名の方より回答がありました。97.1%の方よりご満足いただいたとの回答をいただきました。

今回は10月にスキルアップセミナーを開催予定です。ご参加いただきました多数の会員・非会員の皆様、今後の研修会やセミナーへのご参加もお待ちしております。ありがとうございました。(支部会員 明泉)

村山 地区支部

平成12年4月介護保険制度が始まり、介護支援専門員の業務が明記され、平成13年3月25日山形県介護支援専門員協議会が発足しました。

平成14年3月まで、県内5地区に各地区支部が設立され、村山地区支部は、北村山地域(東根市、村山市、尾花沢市、大石田町)と西村山地域(寒河江市、河北町、西川町、大江町、朝日町)から構成されております。

これまで地域で名だたる著名な方々が支部長及び支部役員として、支部の活動をけん引していただきました。これまでのご苦勞に、心より感謝申し上げます。

さてこの度、役員の変更があり、新たに支部長を拝命しました菅野と申します。寒河江市内の特養併設の居宅介護支援事業所の管理者として勤めております。副支部長には菅原様(村山市)、藤田様(東根市)、村上様(寒河江市)他、総勢18名の構成で運営を開始しました。

また、今年度から事務局は西村山地区の“なごみ指定居宅介護支援事業所の佐藤氏”と“居宅介護支援事業所だいがの村上氏”となります。新支部長はもとより事務局も初めての経験で、会員の皆様にはご迷惑をかけることのないよう精一杯務めさせていただきます。何卒宜しくお願い致します。

ここ3年間は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の観点から、例年行われていた地区支部の事業はほとんど中止となり、昨年の研修会だけはオンラインで実施しました。

講師・ファシリテーター養成研修の開催

山形県介護支援専門員協会では、今年度も講師・ファシリテーター養成研修の開催を予定しております。

これまでの経緯といたしましては、講師養成研修、ファシリテーター養成研修を過去3年間行い、講師養成研修30名、ファシリテーター養成研修34名の修了者がおり、修了者の中からも法定研修等でご活躍を頂いております。山形県介護支援専門員協会といたしまして、養成研修への受講、法定研修等、ご協力いただき大変、感謝しております。

今回は新規受講者、過去3年間の修了者を対象に、ブラッシュアップを目的に研修を開催するものです。

講師養成研修(11月開催)では「ケアタウン総合研究所高室成幸様」と「清幸園ケアプランセンター村山正市様」、ファシリテーター養成研修(12月開催)では「ふくしの人づくり研究所 奥田亜由子様」を講師に迎え、開催予定となっております。皆様におかれましては、推薦があった際には振るって参加いただきたくお願いいたします。

(講師・ファシリテーター養成研修委員会 高橋秀典)

支部で評判のケアマネボの会(飲食をともなう懇親会で、地域のグルメや評判のお店を北村山・西村山で相互に探して、会員同士の親交を深める情報交換会)はすべて中止となってしまいました。

コロナ感染症が早く収束し、これまで同様の対面での研修会やケアマネボの会が開催されることを切に願っているところです。

今後の予定として、10月29日(土)午前 研修会の開催を予定しております。介護支援専門員に必要な認知症に関する知識を習得するための内容を検討しております。

研修講師には、山形県の介護支援専門員の研修講師や認知症研修講師を務められている方を予定しております。

会員の皆様や非会員の皆様、数多くの方々に受講いただけるように準備を進めてまいりますのでご参加くださいますようお願いいたします。

最後に新たに会員として仲間になっていただける方大歓迎です。

ご入会、ご紹介等よろしくお願いいたします。(支部長 菅野)

置賜 地区支部

令和4年度の地区支部総会は書面決議で行われ、会員のみなさまより提案通りの内容で全議案承認されました。今年度はwithコロナも視野に入れ、研修会の開催(開催方法や内容を熟考して)また、会員増の対応を含め活動していく予定です。

8月3、4日の大雨による「大雨災害に関する報告」を村上理事中心に地区支部会員へ連絡し、調査と報告を行いました。そして、このたびの大雨による災害において被災された、地域、事業所、ご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。また県協会、他地区支部のみなさまからの、ご心配や励ましのお言葉をいただいたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度の置賜地区支部研修会は第1回研修会を10月、第2回研修会をR5.2月に計画しています。2月の研修は令和5年2月18日(土)13:00~16:00ケアタウン総合研究所代表 高室成幸氏をお迎えして、居宅系の介護支援専門員

+施設系の介護支援専門員にも役立つ内容で計画しています。今から粛々と準備を進めています。10月、2月ともZoomを予定しています。県内どこの地区からでも参加可能になりますので是非ご参加ください。(支部長 伊藤)

最上 地区支部

最上地区支部では、コロナ禍の中、昨年度の研修の反省点として研修を企画する支部役員等のオンラインでの研修が不慣れなことや、Zoom機能がわからないなどの反省点を踏まえ、支部役員対象のZoom勉強会を令和4年6月29日(水) 新庄徳洲会病院情報システム管理室日野和彦氏より『Zoomの活用方法について』としてご講演いただきました。

当日はほとんどの支部役員の参加もあり、興味深いテーマでもあったこともあり活発な勉強会となりました。今後新型コロナウイルス感染症の感染予防で法定研修、法定外研修などもオンラインでの研修が主流となってきています。今回の勉強会を機にZoomでの支部研修の開催がスムーズに行えるように、支部役員一同さらに精進していきたいと思います。

また令和4年9月14日(水)開催予定の研修会は、会員メリットを考えて会員のみ限定の研修会を企画しました。今回の研修会のほうも第7波の感染拡大の影響もあり、オンラインでの研修となっております。山形県介護支援専門員協会理事 山水園指定居宅介護支援事業所管理者兼主任介護支援専門員 門脇俊宏氏を講師に迎え『ケアプラン点検からみる利用者本位のケアプラン』をテーマにZoomを使用してオンラインでの研修となります。

オンライン研修は、支部の仲間だけでなく各地の介護支援専門員にも気軽に参加していただけるメリットもあり期待しています。新庄最上地域の特徴でもある豪雪の際も雪の心配もせずに参加することも可能です。研修後に最上のおいしいものを食べられないデメリットもありますが…。今後最上地区支部の研修のほうにぜひお越しくださるようお願いいたします。(支部長 高橋)

福祉用具レンタル・住宅改修はおまかせください

YONEKI
care service

福祉用具や住宅改修の情報を発信しています

Instagram
YONEKI.YONEKI

指定福祉用具貸与事業所よねき

TEL 023(674)0023
FAX 023(681)6768
sumasapoyoneki@yahoo.co.jp
〒990-2422 山形市富の中一丁目1-12

GPS機能付徘徊感知機器 ITSUMO代理店

<http://www.yonekiya.com/>

どちらの医療機関の処方せんも対応いたします

源泉堂薬局

山形市五十鈴 1-1-3
☎ 023-642-2055
☎ 023-635-0385
🏠 <http://www.17.plala.or.jp/gensendo/>
🕒 9:00~18:00(水 17:00まで/土 12:00まで)
📅 休 日・祝祭日、年末年始

薬剤師による在宅訪問しています
お薬の困りごとなど、気軽にご相談下さい

ライン公式
アカウント

源泉堂薬局
ホムナジ

各専門職から

Professional Comment
プロフェッショナル・コメント

社会福祉士

2000年4月に介護保険法が施行され、介護支援専門員が登場してから21年が経過しました。高齢者分野に導入された「ケアマネジメント」の手法は、ソーシャルワークのアプローチ手法の一つであり、インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング等の一連のプロセスを踏む手法は、言うまでもなくソーシャルワーク（相談援助技術）です。相談援助や権利擁護、意思決定支援等に関する専門知識と技術を持つ社会福祉士は、IFSW（国際ソーシャルワーカー連盟）が2014年に採択した「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」をその拠り所とし、「社会福祉士の倫理綱領」並びに「行動規範」を実践の価値基盤としています。近年においては「人々の生活の諸課題に取り組む専門職」として、福祉分野のみならず医療・教育・司法・行政等の分野に活動を拡大してきています。2022年7月末現在、当会の正会員は約600名となっており、県内各ブロック（村山ブロック・置賜ブロック・最上ブロック・庄内ブロック）において、会員相互のネットワークを活かし、多職種との連携を大切にしながら利用者や家族支援の役割を担ってきました。介護保険制度下においても、基礎資格が社会福祉士である介護支援専門員が多数存在しており、利用者の権利擁護の観点から、その存在意義を発揮していきたいと考えています。また、法

定研修である主任介護支援専門員研修においては、主任ケアマネジャーの社会的使命を「人材育成」と「地域づくりへの参画」であると明確に示しており、もはやケアマネジャーはケアプラン作成や自法人の事業所の管理運営のみならず、身近な地域における介護支援専門員の資質向上や人材育成、更には地域共生社会づくりの一翼を担う存在として期待されているものと思われます。つまり主任ケアマネジャーは、ソーシャルワーカーであることを期待されているのではないのでしょうか。単身高齢者や夫婦のみ世帯の増加、家族関係の希薄化等が顕著となっている近年において、介護支援専門員のみならず「身寄りのない利用者」「権利が守られていない利用者」「虐待が疑われる利用者」等については、ぜひ身近な社会福祉士に声をかけていただき、利用者の権利をどう守るかを気にかけていただきたいと思います。困難事例と言われる世帯や利用者は、地域の専門職や住民をつなぐ宝であり、社会福祉士は人々の権利擁護に価値をおく専門職として、どのような状況下においても利用者・家族の力を信じ、多職種とともに考え、利用者中心を忘れずにチームの支援方針を見出し、みなさまと共にある存在であり続けたいと思います。

（山形県社会福祉士会 理事長 大江祥子）

わんコラム



担当のウェルシュコーギーのもえです。
今回は、佐藤さん家の金魚の「金ちゃん」を紹介するね!

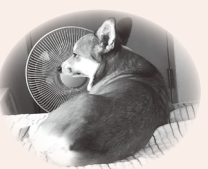
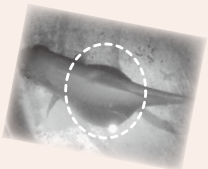
金魚の「金ちゃん」は何年生きているか覚えていません。10年は軽く超えているご長寿金魚です。

私(飼い主さん)が家に帰ると、妻と子供を捨て置いて「金ちゃん、ごはんですよ」とごはんを上げます。(あくまでも「ごはん」です!えさではなく)私の心が和らぐ瞬間です(^^)

あげるときも金ちゃんの体にかかるとびっくりするので、ちょっとずらして水の上に浮かべると、すぐに食べてくれます。最近・・・ごはんのあげ過ぎなのか、運動不足かお腹が出ております(*▽*)

金ちゃんは、水槽ではなく、大きなバケツに空気を送っただけのシンプルな住環境で暮らしています。水槽のように周りから終始、見られることのない環境がストレスなく、長寿の秘訣ではないかと勝手に想像しています。

今年の夏は暑かった!!
金ちゃんのようにお水の中で暮らせたらいいけど、私は無理だから扇風機の前よ♡ あ〜快適だわ。



編集後記

置賜を中心に大雨による災害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。災害の度にケアマネジャーの立場で、災害福祉支援ネットワークなどへの協力が出来ないものか考えます。それには、まず、自分の健康を図るところから始めます・・・

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会誌 ケアマネ通信 やまがた No.37

発行日/令和4年10月

発行人/高橋 則好

発行所/一般社団法人 山形県介護支援専門員協会

〒990-0037 山形県山形市八日町2丁目1-26

TEL 023-664-2120 080-6293-6735 (携帯)

FAX 023-664-2130

E-mail : yacm@gc4.so-net.ne.jp

印刷・製本/田宮印刷株式会社

〒990-2251 山形市立谷川三丁目1410-1

TEL 023-686-6111 FAX 023-686-6114